

『流れてきたよ』 3歳児 6月 伏見こども園

エピソード

水をたくさん使って遊んでいると、プールやタライから水が流れてきました。Aくんは水が大きく広がって流れていく様子に気づき、興奮気味に「先生、先生、流れてきたよ」と知らせてくれました。保育者が「本当だ。こっちまで流れてきたね」と応えると、Aくんはすぐ近くにあったスコップを手に取り急いで細い線をかき始めました。

「川できたよ」とAくんが保育者に知らせると、保育者は「長い川ができたね。あ、水がきたよ」と、Aくんが描いた川に少しずつ水が浸みてきたことを伝えました。その様子を見ていたBくんは、使っていた500mlのペットボトルを持ったまま、「流れてきたん？」と言いながらやってきました。

Aくんが「流れてきた」と答えると、二人は水がゆっくり動いていく様子をじっと見つめていました。水の動きを見ながら、Aくんは持っていたスコップで川を深く掘ったり、Bくんはペットボトルを横にしてコテのように使い川の幅を広げたりする中で、「流れた」「止まった」などと言いながら遊んでいました。

この場面での子どもの育ちや学び

流れてきたよ
(水が流れてきたことに気付く)



流れているね
(水の流れに注目している)



- ・水が流れていくように地面を掘る。
- ・その時に持っていたペットボトルを使って土を広げたり掘ったりするなどして水の動きを見る。
- ・水を流したり、止めたりしようと試す。
- ・近くにいる友達と一緒に「流れてきたね」と同じ思いで水の様子を見る。

保育者の思い

- ・水が大きく広がって流れていく様子に気付いたAくんが咄嗟にスコップで引いた線は、とても細い線でしたが、水が浸みるように流れてきたことで、川のイメージが広がって喜んでいたのかなと思いました。
- ・Bくんは元々ペットボトルに水を入れて遊んでいましたが、Aくんや保育者の声に興味をもってやって来たのだと思います。Bくんがペットボトルの口を手に持ち、側面をコテのように使っていたことには驚きました。Bくんは、ペットボトルで地面をなでるようにすると滑らかに土手ができていくことにも興味をもっている様子でした。
- ・流れてきた水を友達と一緒にじっと見ている二人の間には言葉はほとんどありませんでしたが、水の様子を見て互いがつぶやいた言葉に反応しているようでした。

家庭だったら・・・

流れていく水は、地面を這うようにゆっくりと進み、細くなったり広がったりしながら形を変えていきます。その動きに気づき、じっと見つめる時間は、子どもたちの感性や探究心を育てていきます。大好きなお父さんやお母さんがその気づきに寄り添い、耳を傾けてくれることで、子どもは安心し、「もっと知りたい」「やってみたい」という気持ちを広げていくのかもしれない。